

2010年度 大学入試を振り返る

2010年度入試は18歳人口の増加に加え、不況を背景に「国公立大志向」が高まり、私立大では地方から都市圏への流れが鈍り「地元志向」「安全志向」が随所でみられた。また、卒業後に地元での就職が見込める「資格系学部」に人気が集まるなど、景気の影響を色濃く受けた年であった。

この度、各大学から今春入試の最終的な入試結果資料を送付いただいた。個々の状況については23ページ以降にまとめてあるので是非ご活用いただきたい。また、全国の高等学校の先生方にご協力いただき約167万件の貴重な入試結果調査（可否）データを集めることができた。本誌ではこれらの集計結果を踏まえ、2010年度入試を総括したい。

国公立大学編

はじめに今春入試の受験環境について振り返っておきたい。この春の18歳人口は9年ぶりに増加した。同様に近年減少が続いていた大学志願者数も増加に転じたと考えられ、後述の通り、国公立大、私立大の志願者総数も昨年を上回る数となっている。

今春の大学志願者数の増加は、18歳人口の増加に加えて引き続き現役生の大学志願率が上昇していることも要因である。2006年度に初めて5割を超えた大学志願率は、その後も上昇を続けており、2009年度では54.9%に達した。2010年度入試も前年から0.5ポイント程度上昇しているものと思われる。今春は高校生の就職状況の低迷などもあり、就職から進学へと切り替えた者も例年以上に多かったと考えられる。

全日程で志願者数が増加し倍率上昇

さて、国公立大入試の状況であるが、既に本誌4・5月号で志願状況の分析結果をレポートした。改めてポイントを整理すると、以下の4点が挙げられる。

- ①不況を背景に国公立大人気は上昇し、国公立大志願者数は約1万4千人増
- ②センター試験平均点ダウンにより、少数科目で受験可能な公立大の志願者増加目立つ

- ③難関大や医学科志願者は前年並み
- ④教員養成系・看護系に人気が集まる

【表1】は今回判明した合格者を含む概況である。国公立大志願者の総数は489,270人で前期日程は11,426人増（前年比105%）、後期日程は2,168人増（同101%）といずれも増加した。センター試験平均点ダウンにも関わらずの増加には、不況を背景とした受験生の国公立大志向の高まりが感じられた。後期日程の欠席率も近年上昇傾向にあったが、今春は52.8%と昨年の53.6%から0.8ポイントダウンとなった。最後まで粘り強く国公立大を目指した受験生が多かったようだ。国立大と公立大を分けて見ると、今春は公立大での志願者増加が目立った。公立大では、センター試験の必要科目数が少ない大学が多く、私立大型受験生が例年以上に集まったものと思われる。

合格者数をみると、前期日程では募集人員が増加したものの、90,419人から90,048人へと僅かに減少した。倍率（志願者数／合格者数：以降倍率は全て同じ）は2.9倍と昨年から0.1ポイントアップした。後期日程でも合格者数が25,358人から25,119人と減少し、倍率は7.9倍から8.0倍にアップにした。

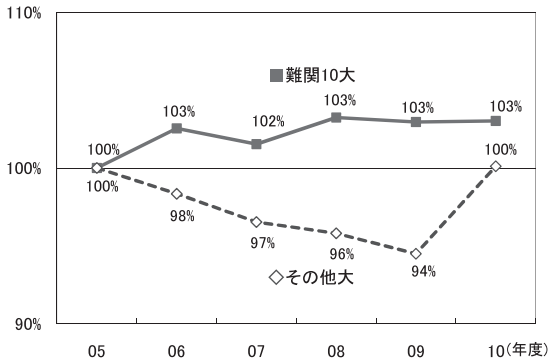
合格者数の減少は、歩留り率（合格者のうち入学手続きした者の割合）が例年低い大学を中心に、今春は合格者数を抑えた大学が多かったことによる。北見工業大（工一前：募集

【表1】国公立大入試結果 全体概況

		募集人員			志願者数 (A)			合格者数 (B)			倍率 (A/B)	
		09	10	前年比	09	10	前年比	09	10	前年比	09	10
国立	前期	63,851	64,135	100%	194,996	201,659	103%	72,442	72,029	99%	2.7	2.8
	後期	16,956	16,578	98%	158,444	158,746	100%	20,806	20,420	98%	7.6	7.8
	全体	80,807	80,713	100%	353,440	360,405	102%	93,248	92,449	99%	3.8	3.9
公立	前期	13,857	14,021	101%	54,863	59,626	109%	17,977	18,019	100%	3.1	3.3
	中期	1,915	1,901	99%	25,357	26,016	103%	4,501	4,449	99%	5.6	5.8
	後期	3,332	3,391	102%	41,357	43,223	105%	4,552	4,699	103%	9.1	9.2
	全体	19,104	19,313	101%	121,577	128,865	106%	27,030	27,167	101%	4.5	4.7
国公立	前期	77,708	78,156	101%	249,859	261,285	105%	90,419	90,048	100%	2.8	2.9
	中期	1,915	1,901	99%	25,357	26,016	103%	4,501	4,449	99%	5.6	5.8
	後期	20,288	19,969	98%	199,801	201,969	101%	25,358	25,119	99%	7.9	8.0
	全体	99,911	100,026	100%	475,017	489,270	103%	120,278	119,616	99%	3.9	4.1

※ 5月24日現在河合塾集計

【グラフ2】 難関大VSその他大 志願者前年比の推移



※難関10大：旧帝大十一橋大・東京工業大・神戸大
 ※志願者数は前期日程で集計

人員179人) 460人→372人 (88人減)、釧路公立大 (経済一前：募集人員65人) 276人→198人 (78人減)、長崎県立大 (経済一後：募集人員72人) 141人→83人 (58人減)、下関市立大 (経済一中：募集人員192人) 639人→597人 (42人減) といった大学で合格者の減少数が大きかった。このような極端な合格者の減少 (あるいは増加) は、有名私立大と競り合う地方国公立大や首都圏近郊の中堅国公立大など合格者の水増し率が高い大学で起こりやすい。

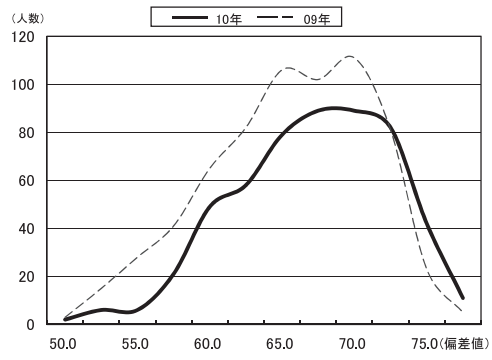
【グラフ2】は国公立大前期日程の志願者数を「難関大」と「その他大」に分けて、2005年度を100としてその推移をみたものである。国公立大は2004年度のセンター試験7科目化以降志願者が減少していた。とくに難関10大を除く「その他大」では毎年志願者が減少しており、地方の国公立大を中心に実質倍率 (受験者数/合格者数) が1倍台の大学も散見された。しかし、今春入試ではセンター試験平均点ダウンによる受験生の安全志向が目立ち、「その他大」の志願者数は大幅に増加し、2005年度並みに回復した。実質倍率が1倍台の募集区分数は566→498と減少し、全国的な国公立大人気を感じられた。

一方、旧帝大を中心とした「難関10大」は08年度以降、前年並みで推移している。今春入試は「その他大」のような大幅な増加こそなかったものの、これら難関大を目指す層に大きな変化はなく、安定した人気を維持したと見てよいだろう。

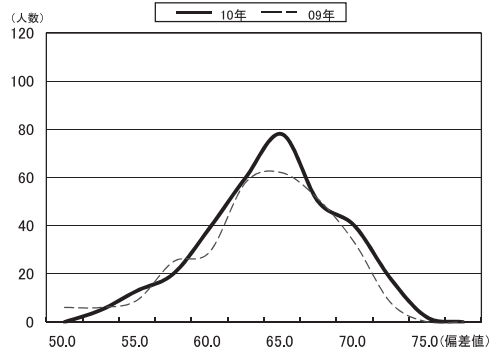
センター試験平均点ダウンにより 東京大でも安全志向がみられる

【表3】はこれら難関大の入試結果をまとめたものである。東京大は2年連続で志願者を減らしており、過熱気味にあった東大人気は落ち着きを取り戻しつつある。今春はセンター試験の平均点ダウンによる影響で東京大を諦め、一橋大をはじめとする他の国立大に出願を変更した受験生も多かったようである。なかでも文科一類では、隔年現象もあり志願者が

【グラフ4-1】 東京大(文科一類)前期受験者の学力分布



一橋大(法)前期受験者の学力分布



2割減少し、倍率も4.1倍→3.2倍と0.9ポイントダウンした。一方で、一橋大(法)、京都大(法)では志願者が増加した。

【グラフ4-1】は東京大(文科一類)と一橋大(法)の前期日程受験者の2次偏差値分布である。昨年と比べると東京大では受験者の山が一回り小さくなっているのに対して、一橋大では偏差値65.0付近を中心に受験者が増加している。とくに偏差値70.0以上の層が厚くなっており、ハイレベルな入試となったことが分かる。

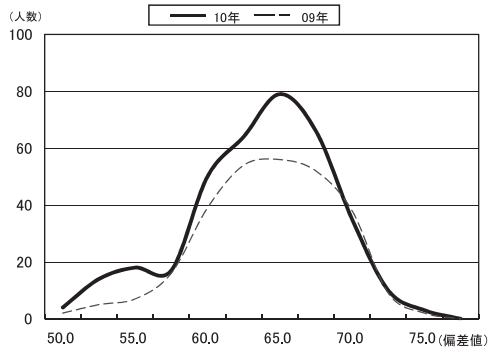
近畿地区では昨秋の模試時から高い人気を示していた京都大で志願者の増加が目立った。京都大は5年連続で志願者が増加しており、今春入試では10学部中7学部で志願者が増加した。京都大が公表している地域別志願者数をみると、地元の近畿地区や関東、東海地区の受験者数が増加している。これらの地区では一昨年までは東大熱の高まりが感じられたが、今春は受験生の目が東京大から京都大に向いたとみられる。

なかでも文学部は前年の反動もあってか志願者が3割増加し、倍率も2.5倍→3.3倍に上昇した。【グラフ4-2】は京都大(文)の前期日程受験者の2次偏差値分布である。分布の山は全体的に大きくなっているが、ボーダーランク (偏差値67.5) より下の層で受験者が増加しているため、難易度に変化は見られなかった。

【表3】 国立難関10大学 入試結果

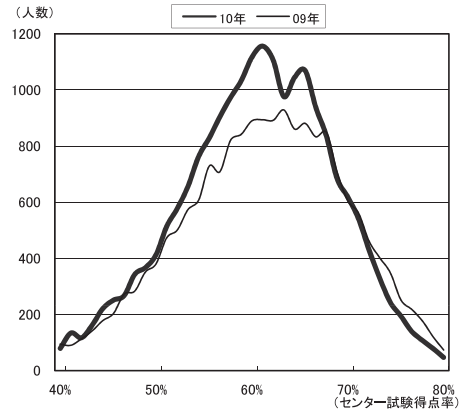
	前期日程									後期日程														
	募集人員		志願者数 (A)			合格者数 (B)			倍率 (A/B)			募集人員		志願者数 (A)			合格者数 (B)			倍率 (A/B)				
	09	10	09	10	前年比	09	10	前年比	09	10	09	10	09	10	前年比	09	10	前年比	09	10	09	10		
北海道	1,920	1,927	5,506	5,428	99%	2,021	2,034	101%	2.7	2.7	465	465	4,528	4,235	94%	525	544	104%	8.6	7.8				
東北	1,847	1,856	5,326	5,341	100%	2,022	2,029	100%	2.6	2.6	93	93	1,354	1,413	104%	123	107	87%	11.0	13.2				
東京	2,961	2,963	9,877	9,439	96%	3,007	3,009	100%	3.3	3.1	100	100	3,166	3,137	99%	100	100	100%	31.7	31.4				
東京工業	862	862	3,262	3,286	101%	924	930	101%	3.5	3.5	146	146	2,145	2,080	97%	153	153	100%	14.0	13.6				
一橋	840	840	3,146	3,332	106%	863	866	100%	3.6	3.8	80	80	1,566	1,473	94%	84	89	106%	18.6	16.6				
名古屋	1,708	1,708	5,153	4,960	96%	1,833	1,849	101%	2.8	2.7	3	5	26	31	119%	4	5	125%	6.5	6.2				
京都	2,844	2,846	7,991	8,320	104%	2,928	2,940	100%	2.7	2.8														
大阪	2,557	2,557	7,201	7,265	101%	2,726	2,739	100%	2.6	2.7	660	665	6,508	6,729	103%	767	751	98%	8.5	9.0				
神戸	1,809	1,809	5,669	5,801	102%	1,945	1,952	100%	2.9	3.0	544	544	5,678	5,448	96%	658	713	108%	8.6	7.6				
九州	1,995	2,021	5,074	5,071	100%	2,165	2,189	101%	2.3	2.3	319	334	2,870	2,879	100%	365	385	105%	7.9	7.5				
難関10計	19,343	19,389	58,205	58,243	100%	20,434	20,537	101%	2.8	2.8	2,410	2,432	27,841	27,425	99%	2,779	2,847	102%	10.0	9.6				

【グラフ4-2】 京都大(文)前期受験者の学力分布

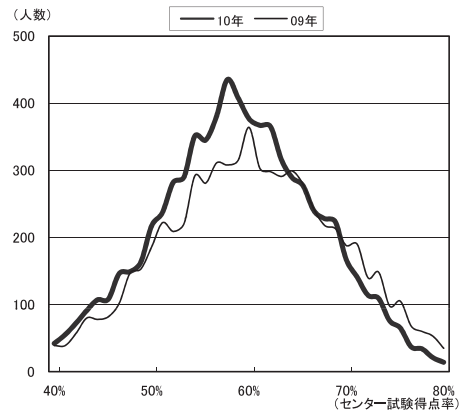


※グラフは該当大受験者の全統記述模試時の偏差値をもとに作成した学力分布（河合塾入試結果調査データより）

【グラフ6】 教員養成課程(前期)受験者の学力分布



看護系(前期)受験者の学力分布



※河合塾入試結果調査データより

**不況により資格系学部が注目される
教員養成・看護系に人気集中**

次に学部系統別の状況を確認しておく。各学部系統の入試結果は【表5】にまとめた。

昨年模試で人気の高かった「教員養成」「看護」といった資格系統で予想通り志願者が増えた。一方、同じく当初人気の高かった「理」「農」は、いずれも志願者は前年並みに留まった。センター試験の平均点ダウンは理系でより大きかった。安全志向が働き、「工」などの他の系統に志望を変更したとみられる。

【グラフ6】は「教員養成」「看護」受験者のセンター試験得点率の分布である。「教員養成」は得点率60～70%付近で受験者の山が一際高くなっている。この付近の得点率は中堅国公立大のボーダーラインとも一致しており、倍率が上昇した大学が多い。

「看護」ではセンター試験の平均点が数学・理科で大幅にダウンした影響を受けて、ボリュームゾーンが左にシフトしているものの、得点率55～65%付近で受験者の山が高くなっている。前期日程の倍率をみると滋賀県立大（人間看護）2.8倍→6.2倍、山梨県立大（看護）3.0倍→5.9倍、大分県立看護科学大（看護）3.3倍→5.6倍など、激戦りとなった大学も多かった。「教育」「看護」の両分野は卒業後地元での就職が見込めるため、全国的に人気となった。今後も資格系学部の人気は続く予想される。

ここ数年、国策により定員増が続いている医学科は、今春入試でも48大学で290名の定員増となった。選抜方法別の内訳をみると、一般入試で145名、推薦入試で115名、AO入試で30名の募集人員増となった。今春入試においても定員増の認可スケジュールが遅かったため、増加分の定員の多くは一般入試の前期日程に振り分けられた。

募集人員が増加になったにも関わらず、医学科の前期日程志願者数は前年比101%にとどまった。合格者数は3,502→

【表5】 国公立大（前期）学部系統別入試結果

系統	募集人員		志願者数 (A)			合格者数 (B)			倍率 (A/B)	
	09	10	09	10	前年比	09	10	前年比	09	10
文・人文・外国語	7,367	7,380	25,719	26,437	103%	8,928	8,902	100%	2.9	3.0
社会・国際	2,099	2,119	8,184	8,283	101%	2,719	2,741	101%	3.0	3.0
法・政治	4,185	4,159	13,803	14,247	103%	4,923	4,912	100%	2.8	2.9
経済・経営・商	7,985	8,027	28,719	29,015	101%	10,131	9,983	99%	2.8	2.9
教育-教員養成課程	6,794	6,886	18,779	20,386	109%	7,664	7,736	101%	2.5	2.6
教育-総合科学課程	2,831	2,738	9,121	9,761	107%	3,274	3,168	97%	2.8	3.1
理	4,944	4,944	14,791	14,919	101%	5,653	5,607	99%	2.6	2.7
工	22,006	22,006	62,176	64,581	104%	25,349	24,914	98%	2.5	2.6
農・林・水産・獣医	5,359	5,350	17,288	17,161	99%	6,167	6,046	98%	2.8	2.8
医・歯・薬・保健	10,078	10,314	37,112	38,495	104%	10,847	11,134	103%	3.4	3.5
医	3,393	3,576	17,040	17,177	101%	3,502	3,712	106%	4.9	4.6
歯	459	469	1,575	1,610	102%	508	531	105%	3.1	3.0
薬	790	799	2,750	2,713	99%	869	889	102%	3.2	3.1
看護	3,645	3,648	10,525	11,527	110%	3,986	3,976	100%	2.6	2.9
医療技術・他	1,791	1,822	5,222	5,468	105%	1,982	2,026	102%	2.6	2.7
家政・生活科学	687	683	2,185	2,286	105%	765	751	98%	2.9	3.0
芸術・体育	1,202	1,348	4,503	7,621	169%	1,311	1,484	113%	3.4	5.1
総合・環境・情報・人間	2,171	2,202	7,479	8,093	108%	2,688	2,670	99%	2.8	3.0
全体	77,708	78,156	249,859	261,285	105%	90,419	90,048	100%	2.8	2.9

※5月24日現在河合塾集計、学部系統の分類は河合塾による

3,712名へと増加したため、倍率は昨年の4.9倍から4.6倍にダウンした。河合塾が設定した2次試験のボーダーランクは19大学でダウンしており、昨年は全ての医学科のボーダーランクは1ランク（偏差値65.0）以上であったが、今春は2ランク（偏差値62.5）の大学が8大学登場した。医学科は全体的に易化に向かったといえる。

2011年度入試のトピックス

最後に、2011年度入試について判明している情報をまとめておく。

2011年度入試で募集の枠組みを大きく変えるのが**北海道大**である【表7】。北海道大の前期日程では2011年度入試から入学時に所属学部を決定しない「総合入試」枠を新たに導入する。募集人員の一部を文系と理系に一括りにして募集が行われる。文系学部および理系4学部では、これまでの学部別入試枠も継続して設定されているが、理、工、農、薬の4学部では「学部別入試」は行われないので注意したい。「学部別入試」と「総合入試」の両枠を実施する学部では、受験生はどちらかの枠を選択することになり、動向が注目される。なお、募集人数をみると、文系学部では「総合入試」の枠が100名と少ない。対照的に理系学部では約7割を「総合入試」枠で募集する。文系と理系では異なる動向となることが予想される。

2011年度入試でも日程の変更を予定している大学がある。**山梨大**（医一医）は前期10名、後期70名で募集を行っていたが、前期日程を廃止して後期日程（80名）のみになる。**広島市立大**（芸術一美術一日本画、彫刻）は募集を前期日程のみで実施していたが、後期日程に変更となる。

当初拡大傾向にあった後期日程廃止の動きは落ち着きを見せつつあるが、2011年度入試では**北海道大**（医一医、保健一看護学、作業療法

学）、**筑波大**（社会・国際学群一社会学類）、**金沢大**（医薬保健学域一保健一理学療法）など数大学で後期日程の廃止が予定されている。一方、**宇都宮大**（工一情報工）、**群馬大**（教育一学校一数学、理科、技術）、**山梨大**（医一看護）では、廃止していた後期日程を復活する。

大学の施設では、**福山市立女子短大**を廃止して、広島県内の公立大では4校目の**福山市立大**の新設が予定されている。また、高知女子大は「**高知県立大**」に校名変更し、男女共学となる。大学の改組では、**福岡女子大**は文、人間環境学部の2学部を国際文学部の1学部に統合し、3学科に再編される予定だ。

このほかにも、入試科目の変更、学部・学科の新設・再編や募集区分の変更などを予定している大学がある。本誌14ページ以降に一部をまとめているほか、河合塾の入試情報サイトKei-Netでも最新の情報を掲載しているので、是非ご利用いただきたい。

【表7】北海道大(前期) 総合入試の導入

2010年度		2011年度	
学部別入試		学部別入試	総合入試
文	(148名)	文	(118名)
教育	(43名)	教育	(20名)
法	(160名)	法	(140名)
経済	(160名)	経済	(140名)
理	(209名)	理	(-)
工	(543名)	工	(-)
農	(159名)	農	(-)
獣医	(20名)	獣医	(20名)
水産	(164名)	水産	(105名)
医(医)	(85名)	医(医)	(90名)
医(保健)	(144名)	医(保健)	(142名)
歯	(35名)	歯	(30名)
薬	(50名)	薬	(-)
			文系 (100名)
			理系 選抜群
			数学重点 (130名)
			物理重点 (235名)
			化学重点 (235名)
			生物重点 (177名)
			総合科学 (250名)

※()内の数は募集人員

※総合入試による合格者は2年次に希望・評価をもとに所属学部を決定する各学部の移行人数は、学科の定員を踏まえたくえで設定されている

私立大学編

ここからは私立大の入試状況を見ていく。本誌4・5月号では、全国主要190大学の一般入試（二期入試および夜間主・2部除く）の志願状況を速報としてお伝えした。今号では、志願者・受験者・合格者数の集計が完了した全国508大学の入試結果をもとに、2010年度の私立大一般入試についてレポートする。

志願者数は増加、倍率も上昇 全体では厳しかった今春入試

初めに私立大一般入試の近年の状況を振り返っておく。私立大では2009年度までの3年間、僅かずつではあるものの志願者（延べ数：以降全て同じ）増加が続いていた。この間、都市部にある主要21大学（表11参照）の志願者数が他の私立大志願者数を上回るという事象も起こったが、2009年度入試ではその他の大学で志願者の伸びが高く、志願者数は再び逆転した。

今春行われた2010年度入試は、地元志向と安全志向が鮮明にあらわれた。併願校数の増加により私立大延べ志願者数は大きな伸びを示した。しかし、主要21大学では志願者数はそ

れほど伸びず、その他の大学の志願者数が主要21大学を引き離す勢いである。なお、国公立大同様に就職に直結する資格系統で人気が出ており、将来への安心感という点で、これも安全志向の一つとみることができる。では2010年度入試の詳細について見ていこう。

今春入試の私立大一般入試全体の志願者数は、前年を約10万3千人上回る269万5千人（前年比104%）であった【表8】。入試方式別の内訳では、一般方式が181万6千人（前年比102%）、センター方式では88万人（同109%）となっている。とくにセンター方式での伸びが著しい年であった。併願校には受験コストが安価なセンター方式を選択した受験生が多かったといえる。

期別では二期入試で志願者数の伸び率が高い。二期入試の志願者数はここ2年ほど減少していたが、今年は増加に転じた。二期での志願者数の増減は、一期入試の合格者数の増減に左右される。今春は一期で厳しい入試となったところもあり、最後まで粘り強く出願した受験生も多かったようである。

次に合格者数を確認する。私立大の合格者数は、定員超過への対応で、ここ2年ほど減少傾向にあったが、今春入試では101%と増加に転じた。とくに昨春減少幅の大きかったセ

ンター方式で増加している。ただし、志願者数の増加率に比べ、両方式とも低く抑えられており、倍率（志願者／合格者：以降倍率は全て同じ）はいずれも上昇した。今春は受験生にとって厳しい入試であったといえよう。

合格者数が大きく増加した大学は、**関西大**1,305人（前年比108%）、**法政大**1,102人（同107%）、**明治学院大**1,090人（同116%）、**立命館大**1,067人（同104%）、**中京大**991人（同118%）などである。このうち関西大、立命館大、中京大は昨春入試で合格者数を大きく減らした大学である。また、合格者数を大きく減らした大学は、**東洋大**△1,907人（前年比88%）、**日本大**△1,502人（同94%）、**関西学院大**△1,344人（同90%）、**東京農業大**△1,306人（同84%）などである。このうち東洋大、日本大、東京農業大では、志願者数が増加しているため倍率は大幅に上昇、厳しい入試となった。

多くの地区で地元が目向き、地方から都市圏への流れが鈍る

次に地区別の動向を検証してみたい。**【表9】**は今春の私立大の入試結果を地区別に分けたものである。各地区とも志願者数は増加しているが、なかでも関東・甲信越、東海地区で増加数が大きくなっている。一方、近畿地区では志願者数は前年からほとんど増えていない。

【表10】は河合塾の入試結果調査データで、私立大志願者数を出願者が所在する地域で分けたものである。受験生が、自身が所在する地区、すなわち地元の大学に出願した数は前

年比105%、他地区の大学に出願した数は同102%となっており、今春の地元志向を裏付ける結果となっている。この傾向が最も顕著なのが東海地区である。この地区では地元大学への出願が1割増加した。一方、関東・甲信越地区、近畿地区への出願者はほぼ前年並みにとどまっており、この地区では、今春は地元が目が向いていたことをうかがわせる。また、北海道・東北地区では地元大学への出願者も増加しているが、関東・甲信越地区への出願者も同様に増加している。これは地元には首都圏の難関大に匹敵する大学がないことに加え、都市圏に比べ大学卒業後の就職に不安が残ることで、多少無理をしても首都圏に出ていく層があるためであろう。このほかの地区でも、近畿、九州地区から関東・甲信越地区へ、あるいは北海道・東北、九州地区から近畿地区へなど、より遠方の地区の大学への出願数が増える傾向にあった。

他地区大学への出願を控える受験生が多かったことから、近畿地区では他地区からの流入が減り、地区としての志願者数が前年並みにとどまる結果になったものと推測する。一方、関東・甲信越地区では、地区内の受験人口増による出願数増加が、他地区からの出願者の減少を上回っており、地区として7万人以上の志願者増加となった。

早慶の志願者減は他地区からの志願者減少が要因 慶應、上智では合格者数増加

【表11】は首都圏・近畿圏の21大学の入試結果を大学グループ別に集計したものである。「早慶上理」「関関同立」の

【表8】 私立大入試結果（一般・センター／一期・二期別）

方式別 期別	志願者数 (A)						合格者数 (B)					倍率 (A/B)				
	08		09		10		08		09		10	09/08	10/09	08	09	10
	08	09	10	09/08	10/09	08	09	10	09/08	10/09	08	09	10			
全体	2,575,219	2,592,010	2,695,423	101%	104%	744,432	729,240	739,383	98%	101%	3.5	3.6	3.6			
一般	1,776,325	1,783,703	1,815,517	100%	102%	476,756	470,557	470,971	99%	100%	3.7	3.8	3.9			
センター	798,894	808,307	879,906	101%	109%	267,676	258,683	268,412	97%	104%	3.0	3.1	3.3			
一期	2,406,235	2,425,009	2,509,909	101%	104%	700,959	684,351	690,740	98%	101%	3.4	3.5	3.6			
二期	168,984	167,001	185,514	99%	111%	43,473	44,889	48,643	103%	108%	3.9	3.7	3.8			

※5月24日現在 河合塾集計（508大学判明分）

※集計は2008～10年度の3年分について志願者数・合格者数を公表している大学を集計（合格者数の未判明やいずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く）。【表9】以降も同条件で作成

【表9】 私立大入試結果（地区別）

地区	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	08	09	10	09/08	10/09	08	09	10	09/08	10/09	08	09	10
北海道	26,829	26,194	26,860	98%	103%	14,488	14,359	14,560	99%	101%	1.9	1.8	1.8
東北	29,873	30,044	30,446	101%	101%	13,600	13,670	13,590	101%	99%	2.2	2.2	2.2
関東・甲信越	1,555,969	1,578,900	1,657,831	101%	105%	405,261	398,949	401,199	98%	101%	3.8	4.0	4.1
北陸	10,319	9,763	10,917	95%	112%	5,947	5,542	6,217	93%	112%	1.7	1.8	1.8
東海	170,240	173,737	186,672	102%	107%	69,912	65,722	66,725	94%	102%	2.4	2.6	2.8
近畿	638,363	623,725	624,856	98%	100%	167,650	164,820	169,724	98%	103%	3.8	3.8	3.7
中国	34,213	35,208	36,931	103%	105%	18,601	18,660	20,010	100%	107%	1.8	1.9	1.8
四国	9,096	11,419	13,038	126%	114%	6,378	5,455	5,760	86%	106%	1.4	2.1	2.3
九州	100,317	103,020	107,872	103%	105%	42,595	42,063	41,598	99%	99%	2.4	2.4	2.6
全体	2,575,219	2,592,010	2,695,423	101%	104%	744,432	729,240	739,383	98%	101%	3.5	3.6	3.6

【表10】 私立大出願校数（大学所在地域別）

	09	10	前年比
所在エリア内の大学に出願	602,058	633,425	105%
他エリアの大学に出願	561,593	570,584	102%

※エリアは10（北海道・東北・東京・関東甲信越・北陸・東海・近畿・中国・四国・九州）に分けて集計

北海道・東北地区受験生の大学所在地域別出願校数

受験大学所在地	09	10	前年比
北海道・東北地区	35,380	36,417	103%
関東・甲信越地区(東京含む)	47,867	49,531	103%
その他地区	3,284	3,100	94%

東海地区受験生の大学所在地域別出願校数

受験大学所在地	09	10	前年比
東海地区	123,165	135,696	110%
関東・甲信越地区(東京含む)	62,853	63,627	101%
近畿地区	32,193	31,813	99%

※河合塾入試結果調査データより作成

東西最難関グループでは今春も志願者が減少した。これを埋めるように「MARCH」「日東駒専」「産近甲龍」の3グループで志願者が増加した。なお、合格者数を見ると、「日東駒専」で減少、「産近甲龍」で前年並み、他のグループでは増加した。

「早慶上理」「関関同立」では志願者減少にも関わらず増加となっている。合格者の増加要因はいくつか考えられるが、前年以上に歩留り率（合格者のうち入学手続きした者の割合）が低かったのであろう。河合塾の入試結果調査データを見ると、国公立大を併願した合格者が増加しており、これら難関私立大より国公立大を入学先として選ぶケースが例年以上に多かったようである。慶應義塾大、上智大では、今春は追加合格者を多く出した。

【表12】は首都圏の3大学グループの志願者数を出身地区別に分けたものである。「早慶上理」では地元志願者が増加しているものの、他地区の志願者が減っている。元々他地区からの出願数が多かったこのグループでは、他地区出願者の減少が志願者減少につながったことがわかる。MARCHでは北海道・東北、東海地区からは増加したが、遠方の近畿、九州地区からの出願者は減少した。

次に地元にあたる関東地区受験生の動向を縦に見てみると、3グループとも志願者数は増加しているが、とくにMARCH、日東駒専で増加率が高くなっている。ここから見えるのは、より確実に合格校を得たい心理から、難関校の出願を減らし、もう少し安全な大学に出願を切り替えている姿である。こういった安全志向が今春は各所で見られた。

志願者増加の顔ぶれは首都圏に集中

【表13】は今春の一般入試における志願者数増加大学と減少大学のトップ20である（人数差順）。この表は志願者増減の絶対数を基準としており、ここに挙がるのは入試規模の大

きな大学ということになる。そのため、この表での順位が人気・不人気の順位を表すものではないことを予めお断りしておく。

さて、今春の増加の顔ぶれは首都圏に集中している。首都圏では受験人口が増加しており、それが個別の大学の志願者増という形で現れたものであろう。増加数1位の明治大は今春早稲田大を抜いて志願者数全国一にも輝いた。2位の法政大は昨春大きく志願者を減らした反動が大きく出た形だ。MARCHではグループ内の大学で志願者数の隔年現象を起こしている。今春は明治大、法政大、立教大が増加、中央大、青山学院大が減少した。また、日本大、東洋大をはじめとして、明星大、東京経済大、国士舘大、芝浦工業大、東京電機大など、首都圏の中堅校では2年連続で志願者が増加しているところも目立つ。

次に志願者減少大学をみると、私立大志願者数全体が増加したこともあり、上位の大学の減少数も昨春に比べると小幅である。このうち立命館大、早稲田大、慶應義塾大、同志社大などは2年連続で減らしている。また、同志社女子大、関西大、甲南大、桃山学院大など、減少大では近畿地区の大学が目立つ。なお、前述の中央大、青山学院大のほか、東京女子大、学習院大、成城大、関西学院大、阪南大などは前年の増加の反動で志願者が減少した大学である。

文低・理高の志願状況 資格系統に人気集まる

【表14】は系統別の入試結果を集計したものである。大筋はGL4・5月号でお伝えした内容と変化ないが、特徴的な系統について再度取り上げておく。

文系各系統では「経済・経営・商」学系の志願者数が前年並みとなったほか、いずれの系統も前年を上回った。このうち「法・政治」学系では、今春の安全志向を示す格好の例と

【表11】 私立大入試結果（大学グループ別）

	志願者数 (A)						合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	08	09	10	09/08	10/09	08	09	10	09/08	10/09	08	09	10	
508大学計	2,575,219	2,592,010	2,695,423	101%	104%	744,432	729,240	739,383	98%	101%	3.5	3.6	3.6	
主要21大学計	1,325,851	1,309,689	1,325,146	99%	101%	287,220	282,140	282,958	98%	100%	4.6	4.6	4.7	
早慶上理	253,220	246,257	238,805	97%	97%	50,142	48,719	49,431	97%	101%	5.1	5.1	4.8	
MARCH	406,536	402,910	418,795	99%	104%	72,789	72,224	73,278	99%	101%	5.6	5.6	5.7	
日東駒専	211,056	220,865	235,987	105%	107%	58,999	56,458	53,853	96%	95%	3.6	3.9	4.4	
関関同立	289,464	274,292	263,355	95%	96%	70,396	68,669	70,463	98%	103%	4.1	4.0	3.7	
産近甲龍	165,575	165,365	168,204	100%	102%	34,894	36,070	35,933	103%	100%	4.7	4.6	4.7	

※大学グループ

早慶上理：早稲田・慶應義塾・上智・東京理科
関関同立：関西・関西学院・同志社・立命館

MARCH：明治・青山学院・立教・中央・法政
産近甲龍：京都産業・近畿・甲南・龍谷

日東駒専：日本・東洋・駒澤・専修

【表12】 首都圏主要大学の出身地区別志願者数の変化

大学	北海道・東北地区 受験生			関東地区 受験生			東海地区 受験生			近畿地区 受験生			中国・四国・九州地区 受験生		
	09	10	前年比	09	10	前年比	09	10	前年比	09	10	前年比	09	10	前年比
早稲田	2,255	1,967		29,877	31,332		5,337	4,934		2,379	2,171		5,310	4,322	
慶應義塾	775	751	96	12,098	12,475	104	2,415	2,247	94	1,076	1,080	94	2,346	2,084	85
上智	299	325		7,853	8,334		837	754		280	267		618	622	
東京理科	1,615	1,727		13,021	13,419		3,383	3,343		462	424		2,055	1,797	
青山学院	1,433	1,374		13,641	13,239		2,666	2,525		679	622		2,310	1,966	
中央	3,246	3,139		16,930	16,861		3,912	3,547		781	715		3,028	2,549	
法政	3,048	3,404	106	20,980	23,776	107	4,041	4,706	103	640	628	96	2,636	2,662	94
明治	3,276	3,643		26,804	31,408		4,870	5,115		951	931		3,795	3,779	
立教	1,341	1,533		22,426	23,045		2,189	2,234		419	442		1,593	1,588	
日本	2,706	2,826		20,034	21,554		3,017	3,111		399	388		2,027	1,945	
東洋	1,674	1,642		17,167	17,709		1,285	1,406		121	107		560	578	
駒澤	797	840	102	7,515	7,823	107	961	1,075	107	77	75	100	510	584	101
専修	1,182	1,148		5,964	7,023		1,406	1,528		100	125		651	681	

※河合塾入試結果調査データより作成

なっている。系統全体では前年比102%と増加したが、個別の大学を見ていくと、早稲田大、慶應義塾大、上智大、同志社大、関西大など難関大で志願者数が大きく減少している。一方で獨協大、東洋大、大東文化大、国士館大、愛知学院大、亜細亜大、専修大、駒澤大など中堅の大学では、志願者が増加しているところが目立つ。法学系は入試難易度が高めの系統であるため、難関大では他大学・他系統への流出が見られ、中堅の大学で志願者増加が目立つ結果となったようである。

理系各系統では「理」「農・林・水産・獣医」系が昨春に続いて高い伸びを示した。また模試時には人気がなかった「工」学系でも志願者数を大きく伸ばした。センター試験の平均点ダウンは理系でより大きかった。国公立大との併願者の増加が出願校数増加につながっている。

「医・歯・薬・保健」系では「医」「看護」「医療技術・その他」分野で志願者が増加している。このうち医学科では、志願者の成績分布を見ると、増加しているのは主にボーダーランク以下の成績層であり、難化にはつながっていない。看護分野では大学・学部新設の影響もあるが、地元で就職が見込めることから人気を集めている。同様に地元での就職が見込めそうな教育、児童、さらには食物・栄養といった分野で

も志願者増加が目立つ。資格に直結する分野の人気は不況時の典型的な動向といえるであろう。ただし、歯学部、薬学部では依然として志願者が減少しており、同じ資格に関連する分野でも対照的な動向となっている。とくに歯学部の志願者数はこの2年間の落ち込みが激しく、倍率は昨春に続き2倍を切っている。定員割れを起こしている大学もあり、今後、思い切った入学定員の削減を進める歯学部の登場も予想される。薬学部も私立大では志願者減少に歯止めがかからない。今春の倍率は2.9倍となり、3倍を切った。

2010年度入試は不況を背景に、地元志向や安全志向などダイナミックな動きが見られた。全体的に厳しい入試であったが、2011年度も受験人口に大きな変化はなく、今春並みの入試が展開されることが予想される。いったん地元に向けられた目は変わるのか、チャレンジを好まず無難な出願をする動きはどうなるのかなどが、注目されるところであろう。

2011年度もすでに多くの大学・学部の新設が公になっている。入試方式等の変更もこれから夏にかけて徐々に明らかになっていく。今回は本誌10月号にて2011年度入試の最新動向をお伝えする。

【表13】 私立大志願者数増加・減少大学（人数差）

●増加した大学

大学	08	09	10	10-09	09/08	10/09
①明治	108,946	106,261	115,700	9,439	98%	109%
②法政	97,017	85,686	94,536	8,850	88%	110%
③明星	4,091	5,128	10,364	5,236	125%	202%
④日本	85,942	90,273	95,322	5,049	105%	106%
⑤近畿	72,244	71,734	76,744	5,010	99%	107%
⑥専修	32,785	31,304	35,377	4,073	95%	113%
⑦東洋	59,638	69,157	72,768	3,611	116%	105%
⑧大東文化	14,839	13,391	16,892	3,501	90%	126%
⑨東京経済	9,564	10,850	14,178	3,328	113%	131%
⑩国士館	8,811	10,213	13,482	3,269	116%	132%
⑪佛教	8,464	9,351	12,185	2,834	110%	130%
⑫東京工科	5,610	4,866	7,658	2,792	87%	157%
⑬芝浦工業	23,965	28,858	31,583	2,725	120%	109%
⑭文教	14,295	13,225	15,920	2,695	93%	120%
⑮東京電機	12,307	13,225	15,776	2,551	107%	119%
⑯獨協	14,561	16,473	18,983	2,510	113%	115%
⑰國學院	15,312	18,281	20,778	2,497	119%	114%
⑱文京学院	3,661	2,861	5,356	2,495	78%	187%
⑲駒澤	32,691	30,131	32,520	2,389	92%	108%
⑳福岡	37,792	39,436	41,758	2,322	104%	106%

●減少した大学

大学	08	09	10	10-09	09/08	10/09
①立命館	95,597	84,600	77,744	-6,856	88%	92%
②早稲田	125,249	121,166	115,515	-5,651	97%	95%
③中央	81,981	85,092	81,898	-3,194	104%	96%
④東京女子	9,584	11,571	9,632	-1,939	121%	83%
⑤同志社女子	11,729	11,384	9,690	-1,694	97%	85%
⑥学習院	14,338	15,458	13,765	-1,693	108%	89%
⑦関西	93,672	90,066	88,399	-1,667	96%	98%
⑧慶應義塾	53,316	49,889	48,260	-1,629	94%	97%
⑨武蔵野美術	11,047	9,626	8,139	-1,487	87%	85%
⑩成城	16,587	18,891	17,467	-1,424	114%	92%
⑪龍谷	38,245	38,856	37,521	-1,335	102%	97%
⑫関西学院	49,977	52,180	50,845	-1,335	104%	97%
⑬青山学院	47,210	54,930	53,695	-1,235	116%	98%
⑭創価	14,156	13,458	12,252	-1,206	95%	91%
⑮阪南	3,144	3,754	2,618	-1,136	119%	70%
⑯同志社	50,218	47,446	46,367	-1,079	94%	98%
⑰甲南	28,847	24,888	23,885	-1,003	86%	96%
⑱東京薬科	4,310	4,262	3,304	-958	99%	78%
⑲名城	27,628	27,986	27,100	-886	101%	97%
⑳桃山学院	6,462	5,828	4,951	-877	90%	85%

【表14】 私立大入試結果（学部系統別）

系統	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	08	09	10	09/08	10/09	08	09	10	09/08	10/09	08	09	10
文・人文・外国語	518,620	529,234	553,846	102%	105%	157,483	154,779	157,725	98%	102%	3.3	3.4	3.5
社会・国際	246,273	241,722	252,538	98%	104%	65,550	63,545	65,761	97%	103%	3.8	3.8	3.8
法・政治	246,727	238,385	242,854	97%	102%	66,234	64,510	64,908	97%	101%	3.7	3.7	3.7
経済・経営・商	584,247	585,564	582,916	100%	100%	138,405	132,947	135,450	96%	102%	4.2	4.4	4.3
理	91,457	96,250	101,359	105%	105%	33,869	31,811	31,090	94%	98%	2.7	3.0	3.3
工	355,434	359,729	387,071	101%	108%	130,207	127,110	127,649	98%	100%	2.7	2.8	3.0
農・林・水産・獣医	68,763	74,358	80,630	108%	108%	22,635	22,335	21,424	99%	96%	3.0	3.3	3.8
医・歯・薬・保健	212,347	207,061	216,822	98%	105%	52,901	54,315	55,345	103%	102%	4.0	3.8	3.9
医	60,639	61,704	65,480	102%	106%	4,333	4,796	4,929	111%	103%	14.0	12.9	13.3
歯	7,337	4,686	4,121	64%	88%	2,416	2,428	2,142	100%	88%	3.0	1.9	1.9
薬	70,887	65,853	61,211	93%	93%	21,281	20,893	20,972	98%	100%	3.3	3.2	2.9
看護	32,395	34,551	44,301	107%	128%	10,517	11,428	12,398	109%	108%	3.1	3.0	3.6
医療技術・その他	41,089	40,267	41,709	98%	104%	14,354	14,770	14,904	103%	101%	2.9	2.7	2.8
家政・生活科学	61,306	61,438	70,044	100%	114%	21,491	20,976	22,193	98%	106%	2.9	2.9	3.2
芸術・体育	82,950	81,102	83,957	98%	104%	24,048	24,218	24,138	101%	100%	3.4	3.3	3.5
総合・環境・情報・人間	107,095	117,167	123,386	109%	105%	31,609	32,694	33,700	103%	103%	3.4	3.6	3.7
全体	2,575,219	2,592,010	2,695,423	101%	104%	744,432	729,240	739,383	98%	101%	3.5	3.6	3.6

※大学計で入試結果を公表している大学は上表には含まない